

野菜畑作生産情報 第4号

平成27年7月17日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆の開花期以降にほ場の乾燥が続く場合は、着莢促進のため
畦間かん水をしましょう！
◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いませう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・ 生育は、乾燥により平年を下回っている。
- ・ 食葉性害虫の発生がみられる。

表-1 大豆の生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合研究所 (黒石)	本年 (平年差・比)	5/25 (±0日)	6/9 (遅5日)	32.3 (82%)	16.0 (74%)	4.3 (-1.7)	0.5 (-0.8)
	平年	5/25	6/4	39.6	21.5	6.0	1.3
	前年	5/23	5/31	34.2	19.4	6.2	0.6
野菜研究所 (六戸)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/25 (早1日)	42.8 (90%)	22.8 (91%)	6.8 (-0.3)	1.1 (-0.7)
	平年	5/16	5/26	47.4	25.0	7.1	1.8
	前年	5/15	5/27	52.8	28.9	7.0	2.0

- 注) ①品種：おおすず。
②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの成績。
③平年値は、農林総合研究所が過去10年間、野菜研究所が過去8年間の平均値。

(2) 今後の管理

ア 開花期のかん水

開花期(7月末～8月始め頃)にはほ場が乾燥し、長期間降雨が見込めないときは、着莢促進のため畦間かん水を行う。畦間かん水は短時間で行い、全体に水が行き渡ったら速やかに排水する。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。

イ 病虫害防除

食葉性害虫、アブラムシ類、べと病の防除に努める。

ウ 排水対策

長雨等で滞水しないよう、明きょ設置などの排水対策を徹底する。

エ 追肥

登熟期間の気温が高く追肥の効果を期待できる津軽地域では、開花期に窒素成分で10a当たり5～8kg追肥する。ただし、過繁茂の場合は、倒伏のおそれがあるため追肥は行わない。

野 菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 萌芽は平年より早かったが、乾燥により地上部の生育は緩慢である。

イ 地下部の生育は、平年並から上回っている。

ウ ナガイモコガ、アブラムシ類が多く、コガネムシ類が見られる。

表－2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25	6/25	113.4	24.4	11.1	4.2	7.1
	1日早		4日早	(91%)	(98%)	(110%)	(100%)	(99%)
	平年	5/26	6/29	124.9	24.8	10.1	4.2	7.2
	前年	5/26	6/28	131.3	20.3	10.6	4.0	6.9
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 1	6/ 8	—	—	23.7	12.2	12.0
	14日早		10日早	(—)	(—)	(145%)	(144%)	(150%)
	平年	5/15	6/18	—	—	16.4	8.5	8.0
	前年	5/10	6/11	—	—	20.2	11.1	8.4
東 北 町 野田頭	本年 (平年比)	5/10	5/30	—	—	18.3	7.6	9.0
	8日早		14日早	(—)	(—)	(162%)	(141%)	(117%)
	平年	5/18	6/13	—	—	11.3	5.4	7.7
	前年	5/18	6/10	—	—	12.7	2.0	6.3

注) ①平年：野菜研は平成19～25年の8か年の平均値。

五戸町は平成13～26年の14か年の平均値。

東北町は平成17～26年の10か年の平均値。

②種子：野菜研は園試系6の2年子(100g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子切いも肩部分(120～150g)。

東北町は庄司系の1年子(60～80g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間21cm(3,952株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

⑤五戸町の生育観測ほでは、6月20日に1回目の追肥、7月5日に2回目の追肥が行われた。

(2) 今後の管理

ア 追肥

① 早植栽培（頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け）

- ・ 第1回目の追肥時期は、新しいも長が5cmとなった頃を目安とする。
- ・ 第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね12～14日おきを目安に行う。
- ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも10a当たり成分量5kgを基準とする。

② 普通栽培（頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け）

- ・ 第1回目の追肥時期は、子いもでは植付け後45～55日頃、切りいもでは植付け後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
- ・ 第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね10日おきを目安に行う。
- ・ 追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも10a当たり成分量5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らすなど調整する。例年より植付け時期が早く、通常の追肥間隔で施肥を行った場合に、追肥の終了時期が早くなり過ぎて肥料切れが心配される場合は、追肥量を増やさずに追肥回数を増やして（分施）、例年の追肥終了時期まで追肥を行う。

表-3 「早植栽培」、「普通栽培」の追肥

	追肥回数	時期 (月/旬)	1回当たりの 追肥量 (窒素量kg/10a)	備考
早植栽培	2回目	7/中～7/下	5	追肥の間隔は、早植栽培は12～14日おき、普通栽培はおおむね10日おきを目安とする。早植栽培、普通栽培ともに8月20日までに終了する。
	3回目	8/上～8/中	5	
普通栽培	1回目	7/中	5	
	2回目	7/下～8/上	5	
	3回目	8/上～8/中	5	

イ 病虫害防除

- ・ 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。
- ・ 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 風水害対策

- ・ 台風などに備え、ネットや支柱の補強、降雨後の停滞水の排水対策を徹底する。
- ・ 植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

2 ばれいしょ

(1) 生育状況

- ア 生育は、平年より早まり、いも数、いも重は上回っている。
- イ 病虫害の発生は見られない。

表-4 ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

場所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 三 沢	本年	3/29	4/28	5/18	6/ 1	82.1	5090.9	476.1
	(平年比)	14日早	8日早	15日早	13日早	(94%)	(138%)	(145%)
	平年	4/12	5/ 6	6/ 2	6/14	87.2	3690.1	329.0
	前年	4/14	5/ 6	5/28	6/12	85.2	2920.7	224.7

注) ①平年：平成15～19年、平成21～24年、平成26年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成15～17年、平成21～24年、平成26年の8か年の平均値。

③品種：メイクイン

(2) 今後の管理

ア 収穫

- ・ 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後くらいに行う。
- ・ 掘り取ったものは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。
- ・ 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉の刈取り又は抜取りをし、表皮をコルク化させてから収穫する。

イ 病害防除

収穫まで期間があるほ場では疫病の防除を行う。曇雨天が続く場合には、疫病が急激に増加するため、農薬散布の間隔を7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除する。

3 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈は平年を上回り、葉数は下回っている。
- イ 黒斑細菌病が散見される。
- ウ 乾燥の影響で発芽揃いが悪いほ場や生育にバラツキがあるほ場が見られる。

表－5 ごぼうの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年	4/19	65.7	3.4
	(平年比)	9日早	(107%)	(85%)
	平年	4/28	61.2	4.0
	前年	5/6	54.8	4.0

注) ①平年：平成17～26年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想。

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

黒斑細菌病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。

イ 追肥

追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

(果菜類)

4 夏秋トマト (雨よけ栽培)

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、5月上旬定植では、2段果房の収穫終期である。
- イ 1～2段花房に尻腐果、中位葉に葉先枯れが目立っている。
- ウ 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類が散見されるが、例年より発生は少ない。

表-6 トマトの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1段花房		3段花房		5段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年 (平比)	5/ 3 2日早	5/11 1日遅	3.7 (116%)	6/ 1 2日早	3.3 (100%)	6/15 6日早	3.1 (111%)
	平年	5/ 5	5/10	3.2	6/ 3	3.3	6/21	2.8
	前年	5/ 5	5/ 5	3.0	5/26	3.9	6/10	2.6
三戸町 斗 内	本年 (平比)	5/18 (2日遅)	5/31 (5日遅)	2.9 (81%)	6/21 (5日遅)	3.7 (112%)	— —	— (—)
	平年	5/16	5/26	3.6	6/16	3.3	7/ 3	2.7
	前年	5/27	5/27	2.2	6/24	3.2	7/ 8	3.9

注) ①平年：五所川原市は平成16～26年までの11か年の平均値。

三戸町は平成20～26年の7か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト (台木：Bバリア)。前年も同じ。

三戸町はりんか409 (自根)。前年も同じ。

③五所川原市の生育観測ほでは、6月25日に6段花房の上で心止めし、直下の側枝に更新している。

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

- ・ 追肥及びかん水は、水分要求量が多くなる午前8～9時頃に行う。
- ・ 1回当たりの追肥量は、液肥の場合10a当たり窒素成分で0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいにこまめに行う。
- ・ 1株当たりかん水量は1.5リットルを基準とするが、かん水は、天候を見ながら毎日から3日おきに行う。予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が多いので1株当たり2.0リットルとする。
- ・ 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。
- ・ 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壤乾燥が著しい場合に大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

イ 温度管理

ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

ウ 病害虫防除

- ・ 灰色かび病、葉かび病防除を主体に計画的に薬剤散布を行う。ハウス内の湿度が高いと、これらの病害が蔓延しやすくなるので、
 - ①換気を行う
 - ②通路にマルチを敷く
 - ③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する

などにより、できる限り湿度を低下させる。また、灰色かび病の防除では薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。

- ・ 葉かび病は草勢が衰えると蔓延しやすいので、草勢維持に努める。
- ・ 高温で経過するとアザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見、早期防除に努める。

5 メロン（雨よけ栽培）

（1）生育状況

ア 着果は概ね順調で、果実肥大は進んでいる。

イ アブラムシ類、ハダニ類、べと病、うどんこ病が散見される。

表-7 メロンの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主 づ る 長 (cm)	主 づ る の葉数 (枚)	着果期 (月日)
つがる市 木造	本年	5/6	228.5	25.3	6/16
	前年	5/8	212.2	23.6	6/20

注) ① 平年：前年から担当農家を変更したため、平年値はない。

② 品種：タカミ（自根）。

（2）今後の管理

ア 萎れ対策

高温による萎れや果実の日焼けを防ぐため、遮光資材の活用などの対策を行う。

イ 適期収穫

- ・ 収穫は、着果後の日数や外観、試し切りによる糖度・肉質の状況などから総合的に判断する。
- ・ 収穫が遅れると発酵果や裂果の発生、貯蔵性の低下等につながるため、十分注意する。また、収穫は朝夕の果温が低いうちに行う。

ウ 病害防除

連作畑で雨天が続くと、つる枯病が発生しやすいので防除に努める。

（葉茎菜類）

6 ねぎ

（1）生育状況

ア 草丈は平年並から上回っている。

イ 乾燥の影響で茎径が細いほ場が見られる。

ウ さび病が多く、べと病、アザミウマ類、ネギハモグリバエ、ネギコガが見られる。

表-8 ねぎの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)
八 戸 市 是 川	本年	1/10	3/20	102.1	24.3
	(平年比)	8日早	8日早	(104%)	(121%)
	平年	1/18	3/28	98.1	20.1
	前年	1/10	4/10	108.6	20.9
十 和 田 市 羽 立	本年	3/11	4/29	74.1	14.8
	(平年比)	23日遅	2日早	(102%)	(95%)
	平年	2/16	5/1	72.4	15.6
	前年	2/28	4/24	85.4	20.0

注) ① 平年：八戸市は平成15～26年の12か年の平均値。
十和田市は平成17～26年の10か年の平均値。

① 品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

ア 病虫害防除

べと病、黒斑病等の発生が懸念されるので、早期発見に努め、各病虫害に効果的な薬剤を選択し、適正防除に努める。

イ 培土・追肥

- ・ 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。
- ・ 最終培土は、軟白に要する日数を計算し、収穫予定日から逆算して計画的に行う。また、軟白部のぼけ防止のため、収穫の10日前頃には手作業による仕上げ培土を行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめに取る！
 - 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！
-

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	3462
直通	017-734-9481
